

3. 暑さ指数（WBGT）の活用に関する意識調査

国民の暑さや暑さ対策に対する認識や、暑さ指数（WBGT）の認知度・活用状況を明らかにするため、WEB アンケートを用いた意識調査を実施した。以下に調査結果を示す。

1) 実施概要

24 問の質問票を作成し、地域別、年代別、性別の各属性別に 100 サンプルを確保することとし、計 6,400 サンプルの回答を確保した。

- ・地域 : 8 地域（北海道ブロック、東北ブロック、関東・甲信ブロック、北陸ブロック、東海ブロック、近畿ブロック、四国・中国ブロック、九州・沖縄ブロック）
- ・年代 : 4 年代（15～29 才、30～49 才、50～64 才、65 才以上）
- ・性別 : 2 パターン（男、女）

実施時期は 2020 年 10 月 15 日（木）～10 月 16 日（金）とした。

2) 調査項目

「回答者の属性」、「夏の暑さ・熱中症に関する基本的な認識」、「暑さに関する情報の利用」、「熱中症予防情報サイト」、「暑さ対策の実施状況」、「エアコンの使用状況」、「暑さに対する意識・行動変容等」「暑さ指数（WBGT）の名称変更」に関してそれぞれ調査項目を作成した。実際の調査画面は巻末資料 2 に示した。

(1)回答者の属性（地域・性別・年代は調査機関のパネルで特定）	
Q1	日中の平均的な屋外滞在時間
Q2	熱中症の既往歴（自己診断含む）
Q3	高齢者や子どもとの同居有無
Q4	高齢者への呼びかけ
(2)夏の暑さ・熱中症に関する基本的な認識	
Q5	熱中症症状の理解
(3)暑さに関する情報の利用	
Q6	暑さ指数（WBGT）の認知の程度
Q7	暑さ指数（WBGT）の情報源
Q8	熱中症警戒アラートの認知の程度
Q9	熱中症警戒アラートの情報源
Q10	日常的に確認する暑さの情報
Q11	暑さの情報を確認するタイミング
(4)熱中症予防情報サイト	
Q12	「熱中症予防情報サイト」の認知
Q13	「熱中症予防情報サイト」の利用方法

(5)暑さ対策の実施状況	
Q14	屋外の暑さ対策と頻度
Q15-1	屋内の日中の暑さ対策
Q15-2	屋内の日中の暑さ対策の使用時間
Q16-1	屋内の就寝時の暑さ対策
Q16-2	屋内の就寝時の暑さ対策の使用時間
(6)エアコンの使用状況	
Q17	エアコンの設置・使用状況
Q18	エアコン使用をためらう理由
Q19	住居について
(7)暑さに対する意識・行動変容等	
Q21	暑さに対する意識・行動変容
Q22	対策行動を増やした理由
Q23	対策行動を増やさない理由
(8)暑さ指数（WBGT）の名称変更	
Q24	暑さ指数（WBGT）の名称変更

3) 調査結果

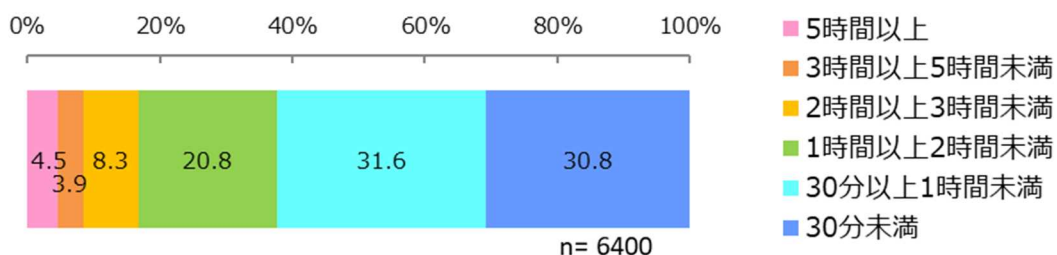
各設問の回答状況を以下に示した。また、適宜クロス集計を行い、回答の傾向を分析した。

(1) 回答者の属性

Q1 日中の平均的な屋外滞在時間

あなたは普段の平日に、どのくらいの時間、屋外にいますか。※「屋外」は建物の中・乗り物の中ではない場所のことを指します。

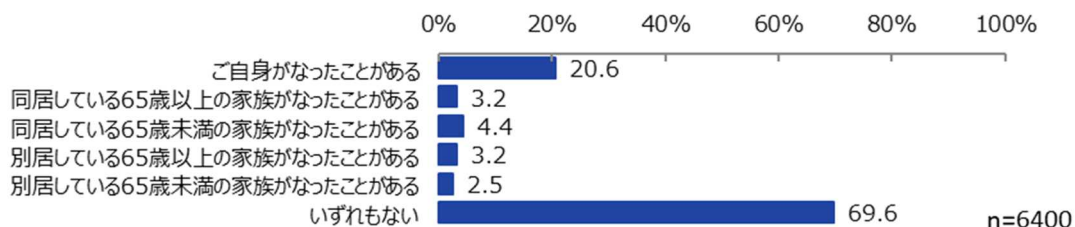
6割以上の回答者が屋外滞在時間1時間未満である。



Q2 熱中症の既往歴（自己診断含む）

ご自身またはご家族や身近な方が「熱中症」になった経験はありますか。（いくつでも）※病院で診断された場合だけでなく、自己判断での場合も含めてお答えください。

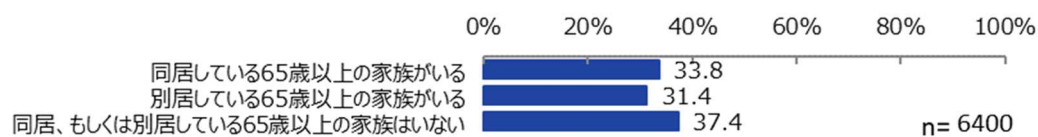
自身が熱中症にかかったことのある回答者は 1/5 程度である。



Q3 高齢者との同居有無

現在同居、もしくは別居している 65 歳以上の家族はいらっしゃいますか。（いくつでも）

6割程度の回答者が、高齢者と同居または別居をしている。



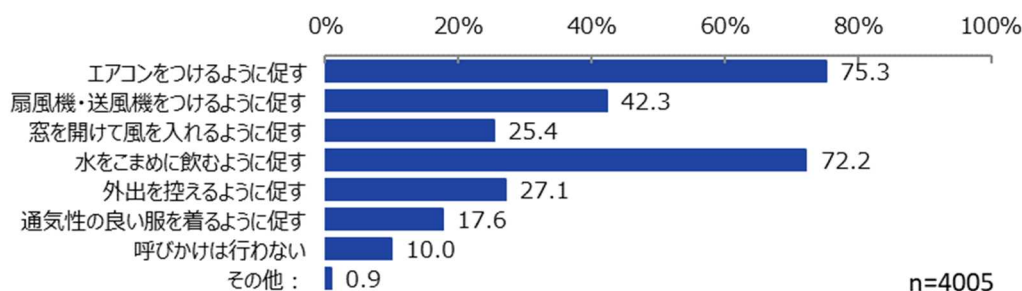
同居している 65 歳以上の家族がいる 15-29 歳は 1 割以上 30-49 歳及び 50-64 歳は 2 割以上であった。別居している 65 歳以上の家族がいる 15-29 歳は 3 割以上 30-49 歳及び 50-64 歳は 4 割程度であった。



Q4 高齢者への呼びかけ

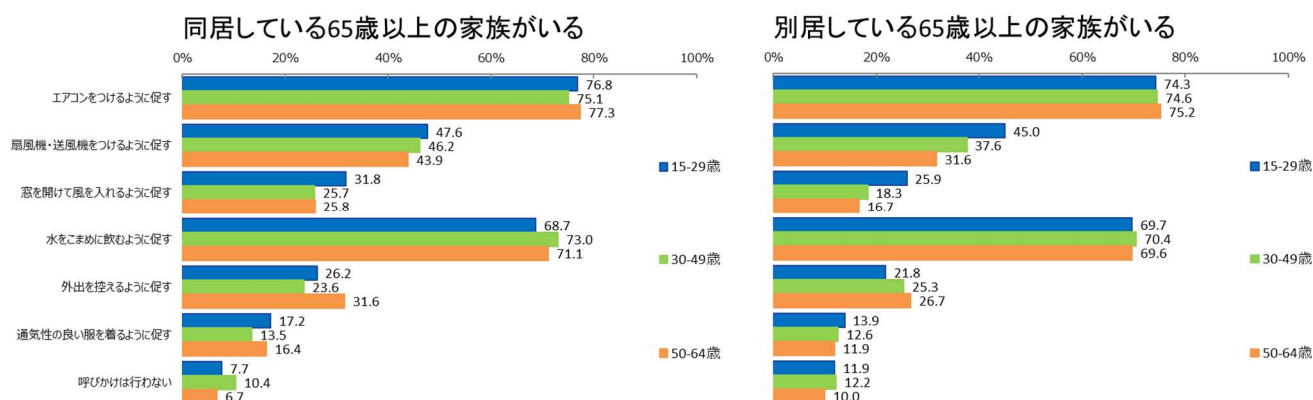
現在同居、もしくは別居している 65 歳以上の家族に対し、熱中症対策に関して、どのような呼びかけをしていますか。(いくつでも)

7 割以上の回答者が、「エアコンをつけるように促す」及び「こまめに水を飲むように促す」を実施している。



※「その他」の回答：塩分補給を促す(n=7)、スポーツドリンク補給を促す(n=7)など

同居または別居している 65 歳以上の家族がいる回答者は年代別に見ても、7 割以上で「エアコンをつけるように促す」を実施している。

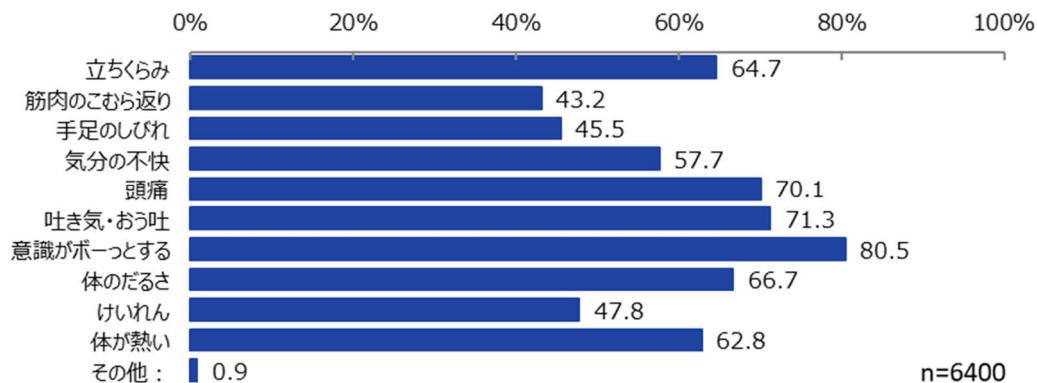


（２）夏の暑さ・熱中症に関する基本的な認識

Q5 熱中症症状の理解

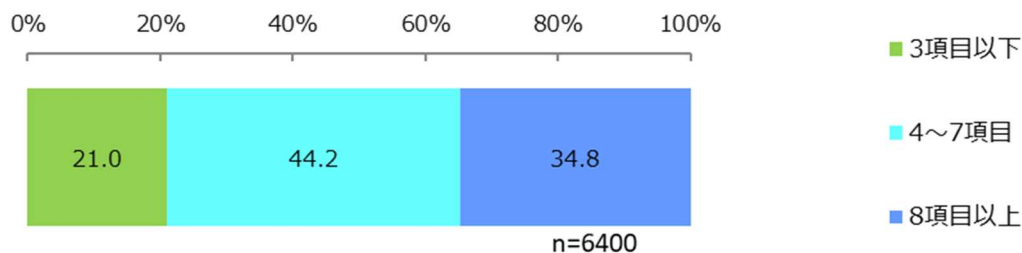
熱中症の症状だと考えるものをお答えください。（いくつでも）

「筋肉のこむら返り」「手足のしびれ」といった軽度の症状の認知度が 50%以下となっていた。重度の症状の「けいれん」についても 50%以下となっていた。



※「その他」の回答：口渇(n=6)、汗が出なくなる(n=2)、大量の汗(n=2)など

認識されている項目数を 3 項目以下、4～7 項目、8 項目以上に分類し集計を行うと約 35%の方が 8 項目以上となっていた。3 項目以下の方は 2 割程度であった。

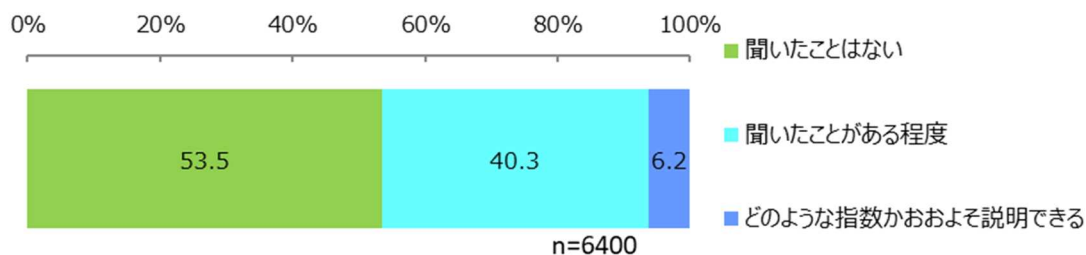


（３）暑さに関する情報の利用

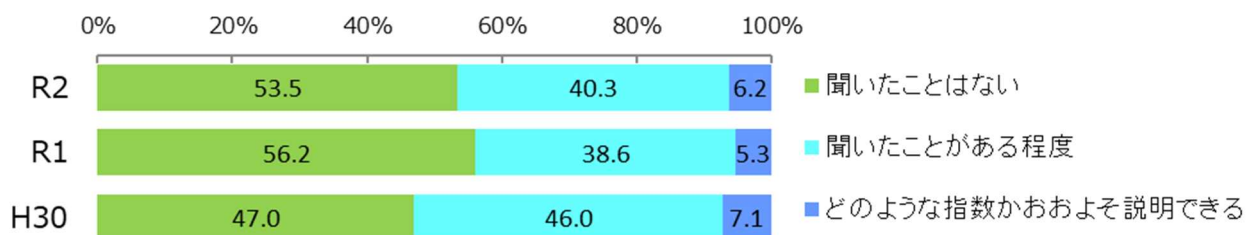
Q6 暑さ指数（WBGT）の認知の程度

「暑さ指数（WBGT）」を知っていますか。

暑さ指数（WBGT）の認知度は 46.5%（昨年度は 44%）で、どのような指数か説明できる回答者は 6.2%（昨年度は 5%）であった。



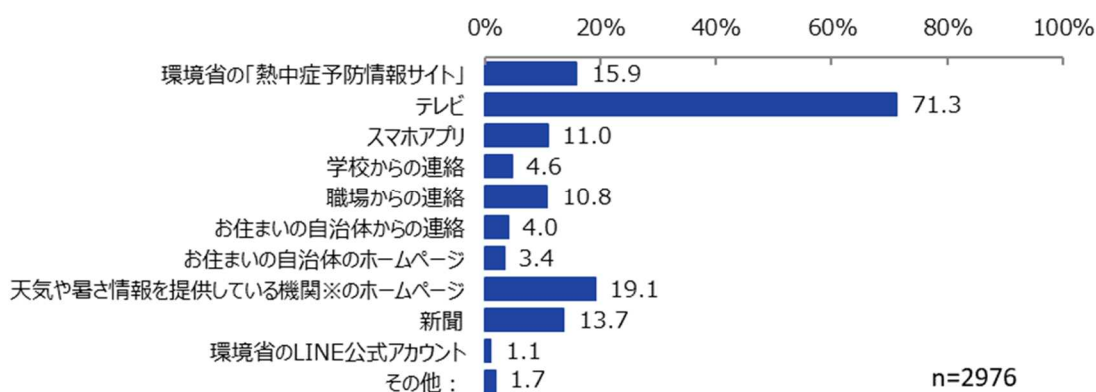
3か年の暑さ指数（WBGT）の認知度は、若干のばらつきがあるものの、傾向としての変化はみられなかった。



Q7 暑さ指数（WBGT）の情報源

「暑さ指数（WBGT）」をどこで聞いたり見たりしたかお答えください。（いくつでも）

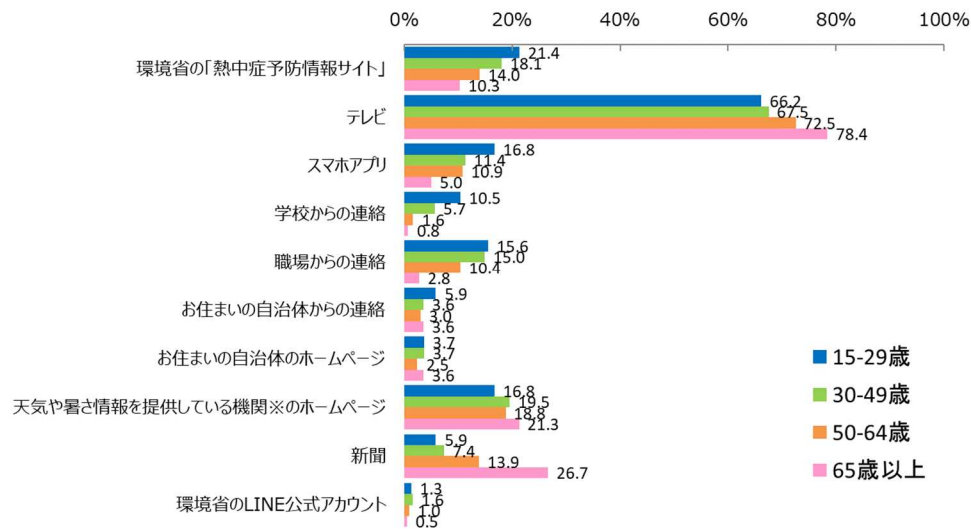
テレビが最も多く、7割程度であった。次いで、ホームページが19%、環境省の「熱中症予防情報サイト」は16%（昨年度は15%）であった。



「その他」の回答：学校の授業や研修会(n=17)、運動競技会での説明等(n=6)など

※気象庁、日本気象協会、Yahoo!天気など

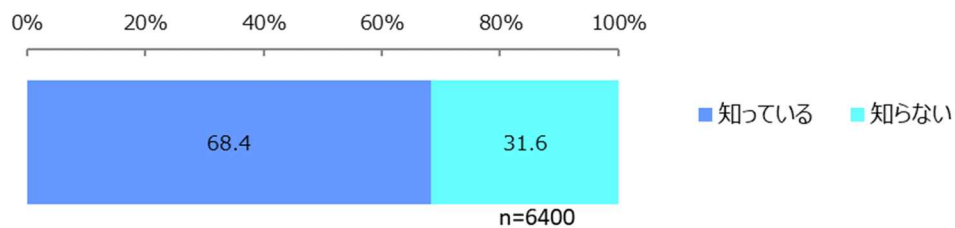
年代が高くなるほど、テレビ、新聞から情報を入手している傾向にある。スマホアプリからの情報を入手している 65 歳以上は 65 歳未満のそれぞれの年代の回答者と比べ、約 5~10%低くなった。



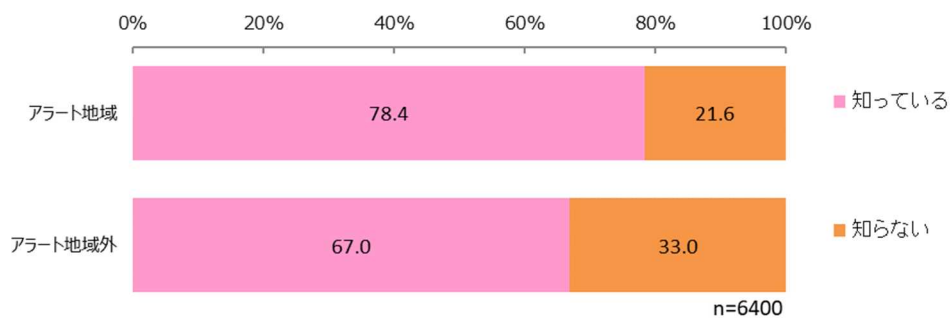
Q8 熱中症警戒アラートの認知の程度

「熱中症警戒アラート」を知っていますか。

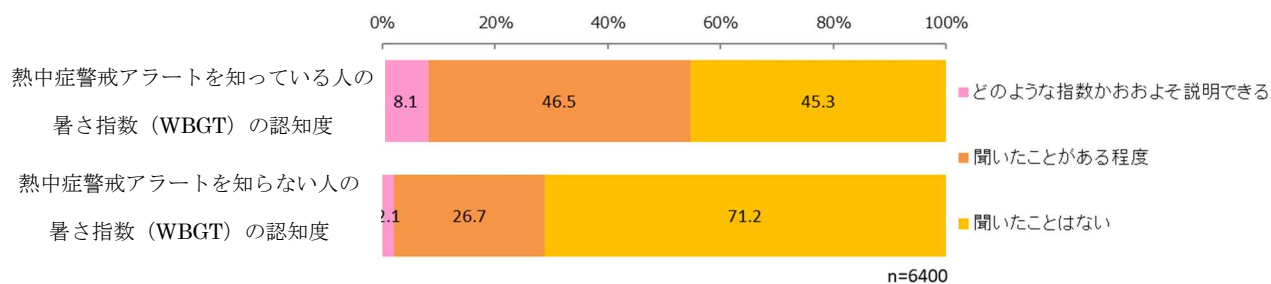
熱中症警戒アラートの認知度は 68.4%であった。



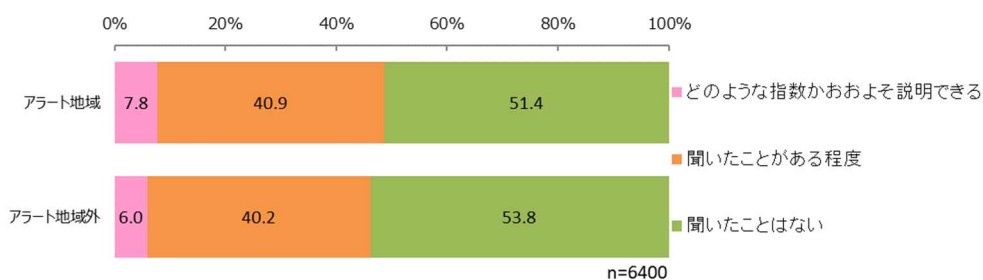
熱中症警戒アラート実施地域の方の 8 割程度が熱中症警戒アラートを認知していた。



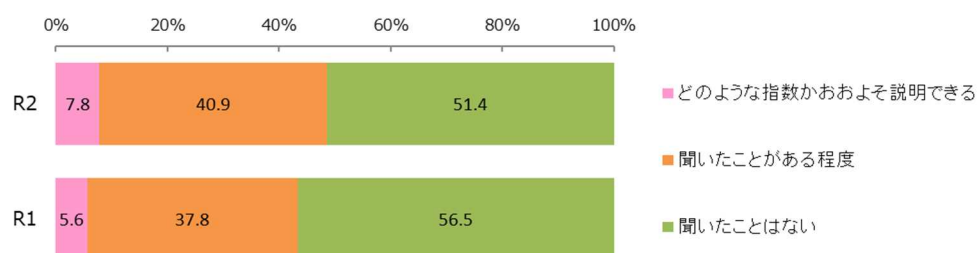
暑さ指数（WBGT）の認知度（Q6）との関係を確認すると、熱中症警戒アラートを知っている方が、暑さ指数（WBGT）の認知度が高い傾向にあった。



熱中症警戒アラート実施地域の方が、約 2%暑さ指数（WBGT）の認知度が高くなった。



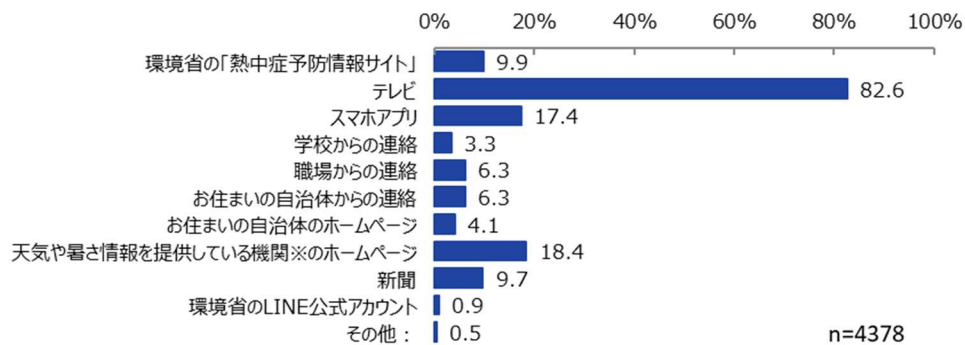
熱中症警戒アラート実施地域の昨年度との暑さ指数（WBGT）の認知度を比較すると、約 5%高くなった。



Q9 熱中症警戒アラートの情報源

「熱中症警戒アラート」をどこで聞いたり見たりしたかお答えください。(いくつでも)

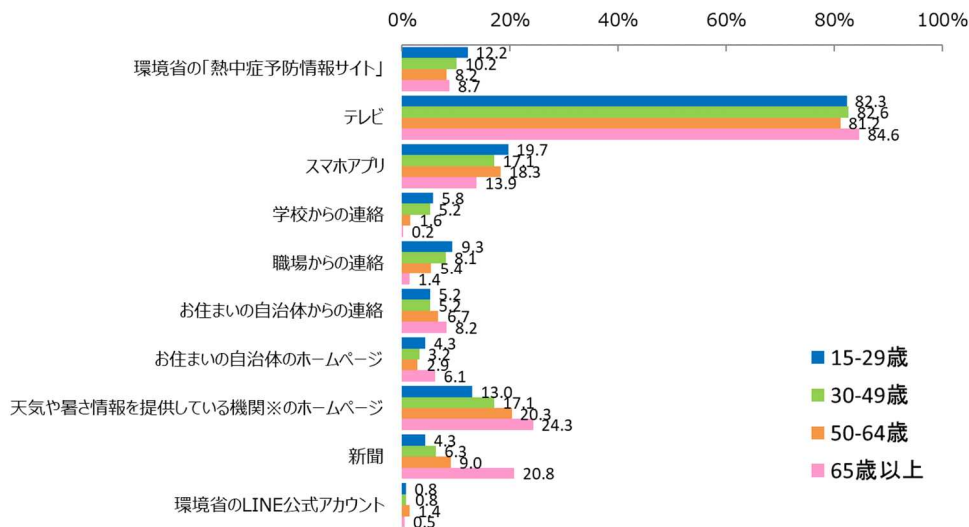
テレビが最も多く、8割程度であった。次いで、ホームページが18%、環境省の「熱中症予防情報サイト」も10%であった。



「その他」の回答：ラジオ(n=3)など

※気象庁、日本気象協会、Yahoo!天気など

年代が高くなるほど、暑さ情報を提供している機関のホームページ、新聞から情報を入手している傾向にある。スマホアプリからの情報を入手している65歳以上は65歳未満に比べ、約5~10%低くなった。

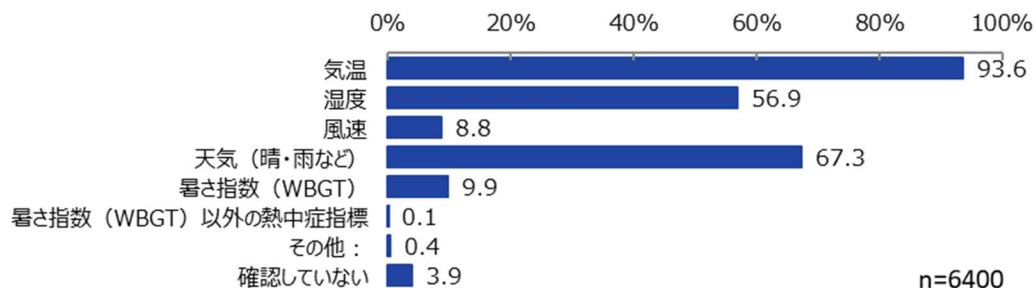


Q10 日常的に確認する暑さの情報

あなたが夏に日常的に確認している暑さの情報をお答えください。(いくつでも)

気温や湿度、天気等の指標を確認している割合が高い一方、暑さ指数を確認している割合は9.9%（昨年度は5.8%）であった。

今回、暑さ指数（WBGT）以外の熱中症指標を回答した方に具体的に確認している指数を質問したところ、回答数が0.1%に減少した。（昨年度は4.4%）

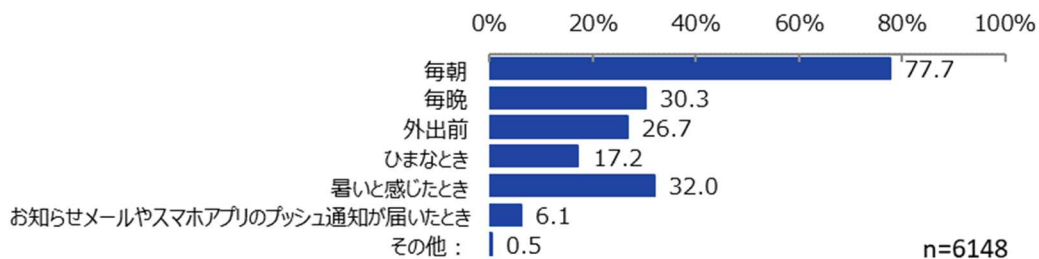


※「その他」の回答：紫外線情報(n=7)、天気予報(n=4)、不快指数(n=2)など

Q11 暑さの情報を確認するタイミング

夏に暑さの情報を確認する時間帯・タイミングをお答えください。(いくつでも)

7割以上の回答者が「毎朝」暑さの情報を確認している。



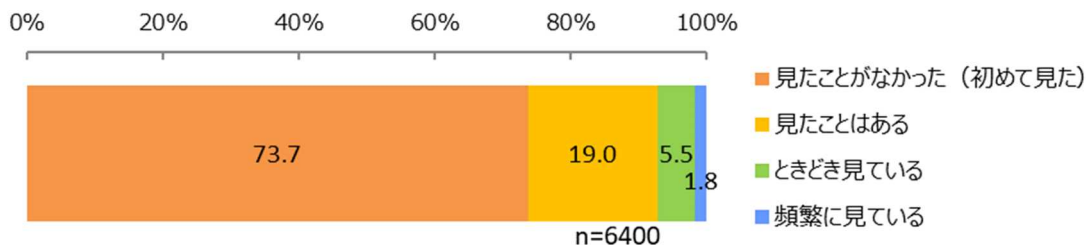
※「その他」の回答：天気予報を見た時(n=9)、前夜から前夜(n=3)、運動前(n=2)など

(4) 熱中症予防情報サイト

Q12 「熱中症予防情報サイト」の認知

環境省の「熱中症予防情報サイト」を知っていますか。

熱中症予防情報サイトを知っていた回答者は 26%（昨年度は 23%）であった。



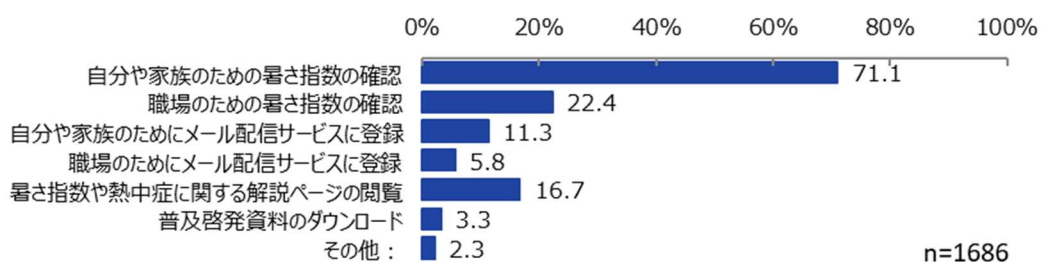
熱中症予防情報サイトを知っている回答者は、3 か年で約 5% 上昇している。



Q13 「熱中症予防情報サイト」の利用方法

「熱中症予防情報サイト」をどのように利用しましたか。（いくつでも）

自分や家族のための暑さ指数の確認のために利用している回答者が 7 割と多かった。
職場のための確認も 1/4 程度あった。



※「その他」の回答：たまたま見た(n=8)

(5) 暑さ対策について

Q14 屋外で実施している暑さ対策と頻度

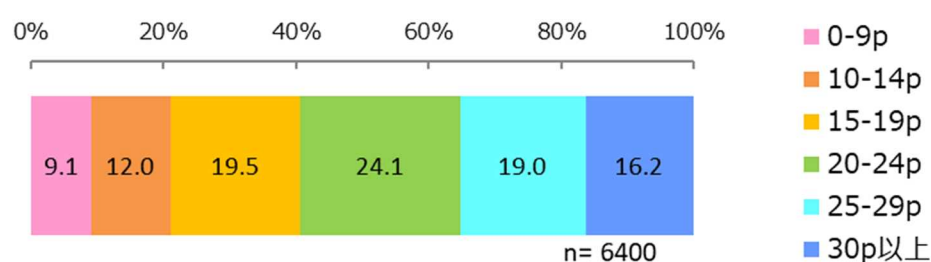
あなたが夏に普段屋外で行っている暑さ対策とその頻度をお答えください。

「通気性の良い服の着用」、「飲み物の携帯」、「冷たいものの飲食」、「なるべく日陰を歩く」、「エアコンの効いた場所でひと休み」などで9割程度の回答者が実施していた。

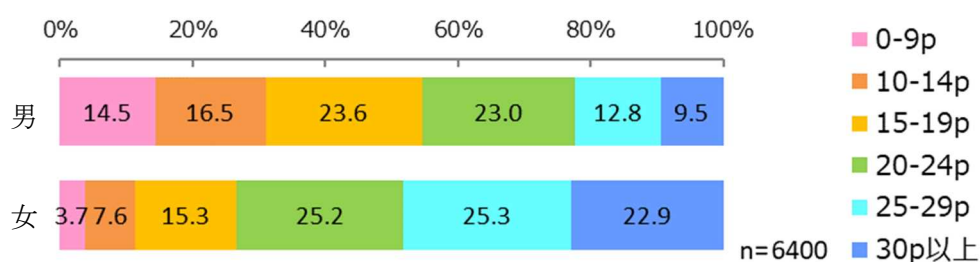


※「その他」の回答：シャワーを浴びる・水風呂(n=25)、塩分をとる(n=21)、(濡れ) タオルを使う(n=14)、氷・アイスを食べるなど(n=12)、プール・川・海に行く(n=6)など

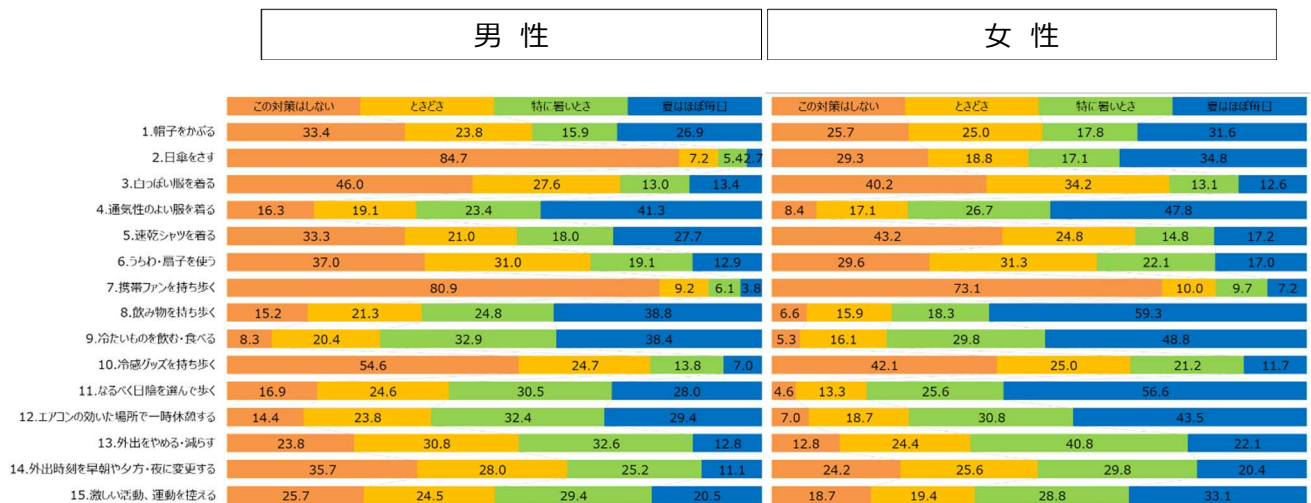
実施の頻度について得点化し、15個の対策を総合得点化した。「夏はほぼ毎日」であれば3点、「特に暑いとき」であれば2点、「ときどき」であれば1点とし、各回答者の総合得点を算出した。



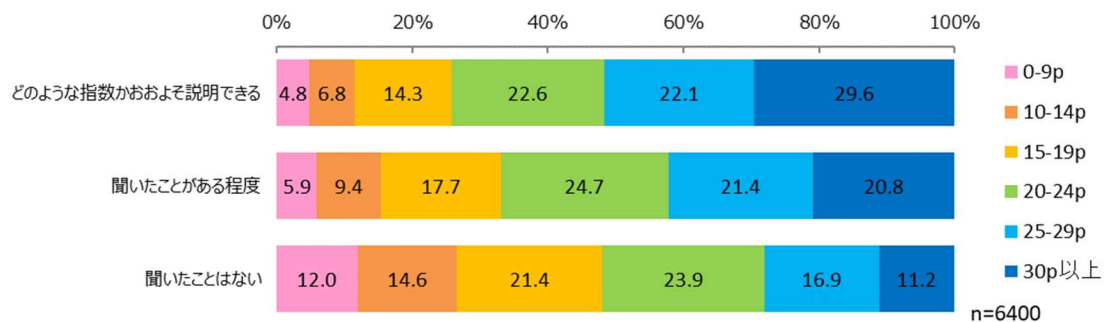
実施頻度を、性別で確認すると、男性よりも女性の方が高い傾向にあった。



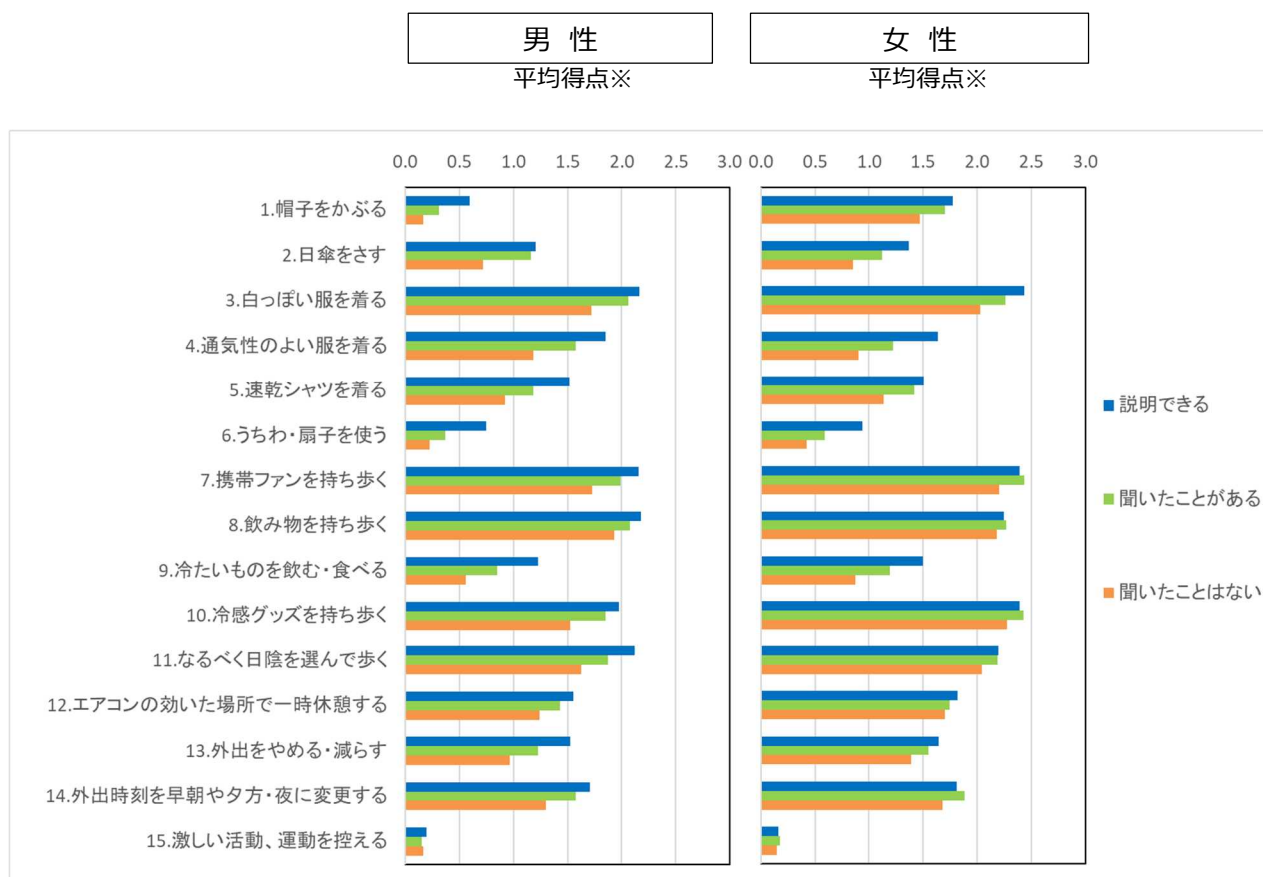
男女による違いを詳細に見ると、女性の方が全体的に暑さ対策行動を積極的にとっており、特に「日傘をさす」「日陰を選んで歩く」で大きく異なり、女性の方が積極的に日射曝露を回避していることが分かる。



暑さ指数（WBGT）認知度（Q6）との関係を確認すると、暑さ指数を知っている方が、対策実施の総合得点が高い傾向にあった。

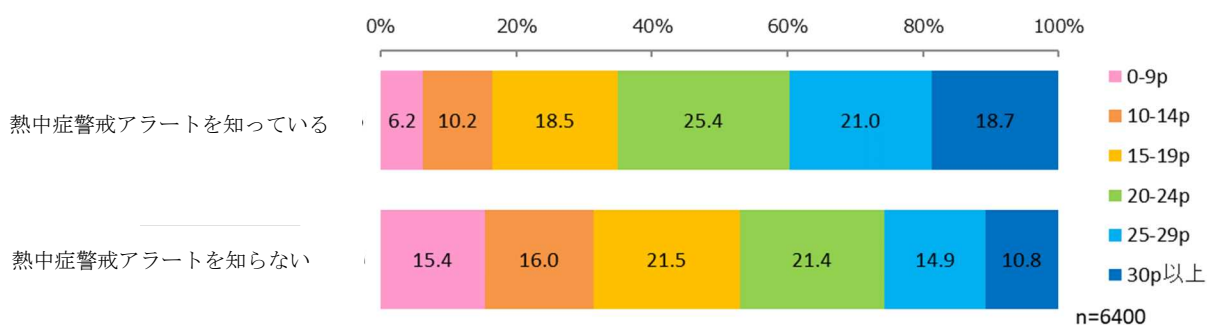


暑さ指数（WBGT）の認知度による違いを詳細に見るため、暑さ対策行動の違いが大きい男女別に各対策の平均得点を集計した。ほぼ全ての対策で、暑さ指数を知っている方が、得点が高くなる傾向が見られた。

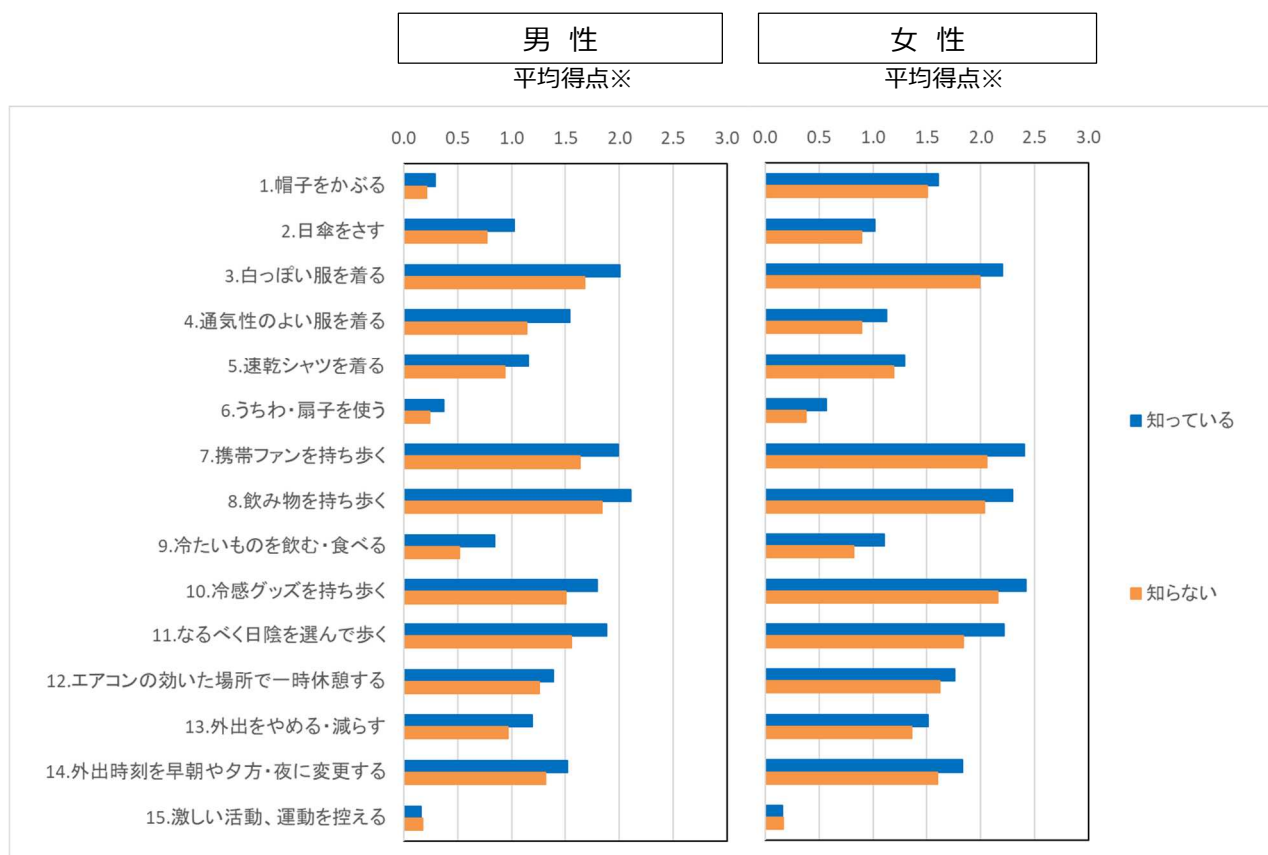


※「夏はほぼ毎日」であれば3点、「特に暑いとき」であれば2点、「ときどき」であれば1点とした場合の各対策の平均得点

熱中症警戒アラートの認知度（Q8）との関係を確認すると、熱中症警戒アラートを知っている方が、対策実施の総合得点が高い傾向にあった。

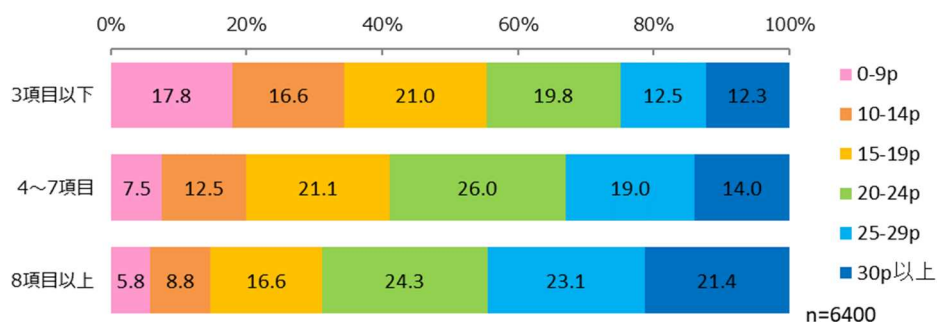


熱中症警戒アラートの認知度による違いを詳細に見るため、暑さ対策行動の違いが大きい男女別に各対策の平均得点を集計した。ほぼ全ての対策で、熱中症警戒アラートを知っている方が、得点が高くなる傾向が見られた。

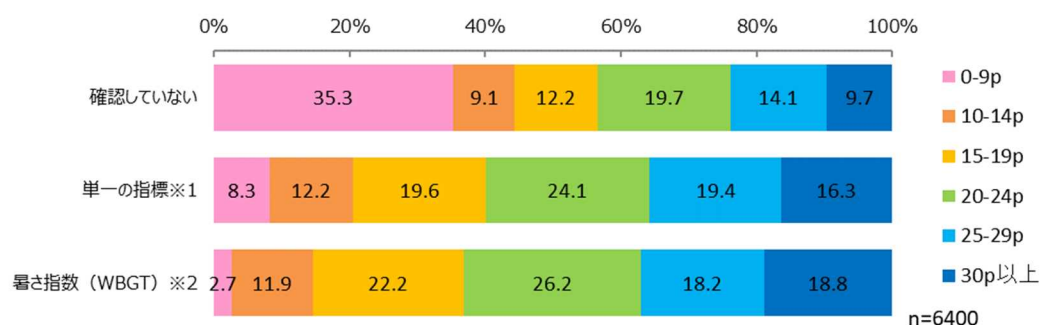


※「夏はほぼ毎日」であれば3点、「特に暑いとき」であれば2点、「ときどき」であれば1点とした場合の各対策の平均得点

熱中症症状の理解（Q5）との関係を確認すると、熱中症症状として認識している項目が多いほど、対策実施の総合得点が高い傾向にあった。



日常的に確認している暑さ情報（Q10）との関係を確認すると、気温等の単一の指標を確認しているより、暑さ指数（WBGT）や暑さ指数以外の熱中症指標を確認している場合の方が対策実施の総合得点が高い傾向にあった。



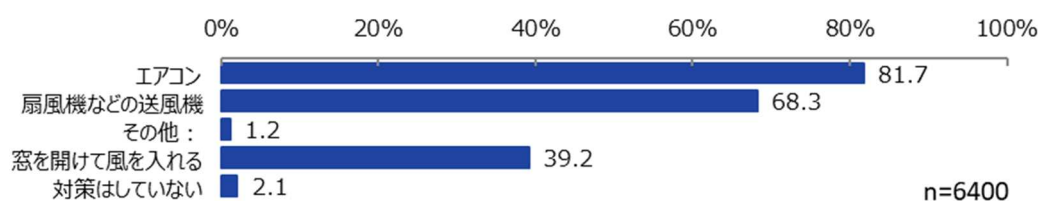
※1 暑さ指数・暑さ指数以外の熱中症指標の他の指標（気温・天気等）を1種類～複数確認している人

※2 暑さ指数のみまたは、他の指標と暑さ指数を確認している人

Q15-1 屋内の日中の暑さ対策

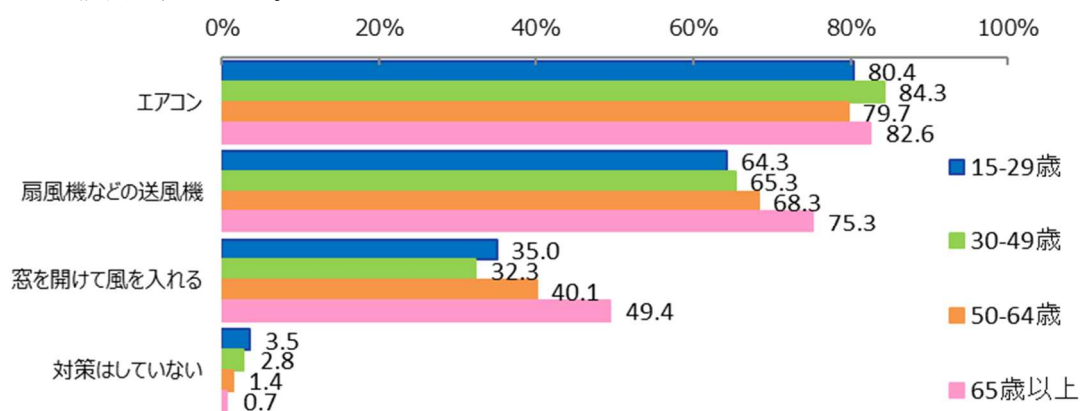
あなたが夏に「普段（平日）、起きているときに「屋内（ご自宅）」で利用している暑さ対策」をお答えください。（いくつでも）

エアコンが8割以上、扇風機は7割程度であった。



※「その他」の回答：保冷剤等を使う(n=14)、うちわを使う(n=7)、シャワーを浴びる(n=6)など

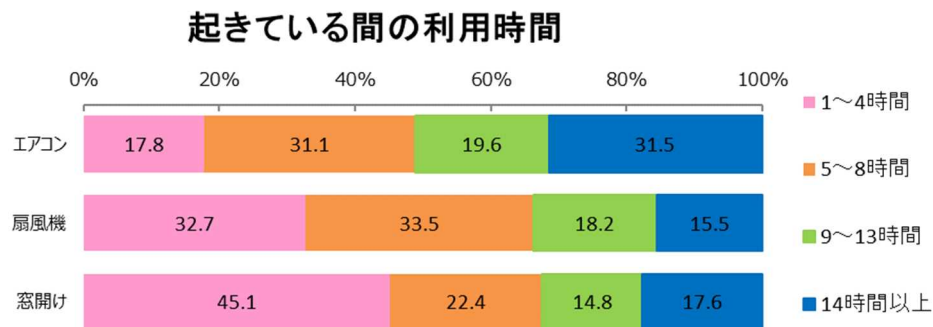
年代別に見ると、エアコンの使用ではほとんど違いが見られず、扇風機と窓開けは年代が高くなるほど、多くなる傾向が見られた。



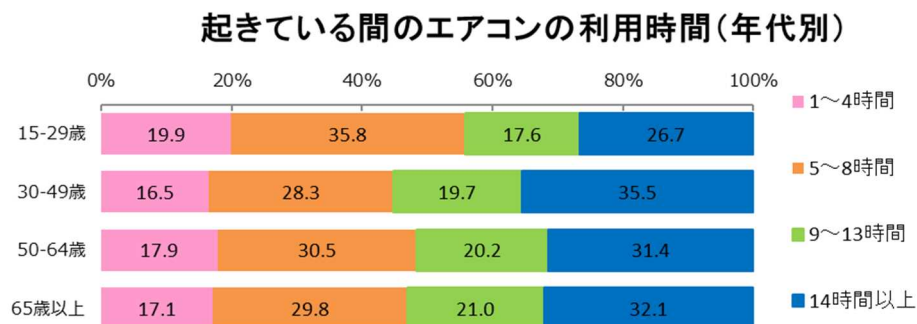
Q15-2 屋内の日中の暑さ対策の使用時間

あなたが「普段（平日）、起きているときに「屋内（ご自宅）」で利用している暑さ対策」について、1日当たりの平均的な利用時間（真夏の暑さが厳しい期間を想定してください）をお答えください。

起きている間、エアコンをつけっ放しにしているのは約3割、4時間以下は約2割であった。



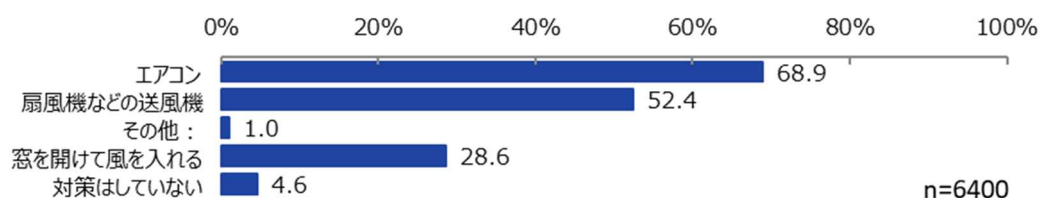
年代別に比較したところ、起きている間、エアコンをつけっ放しにしている回答者に違いはみられなかった。



Q16-1 屋内の就寝時の暑さ対策

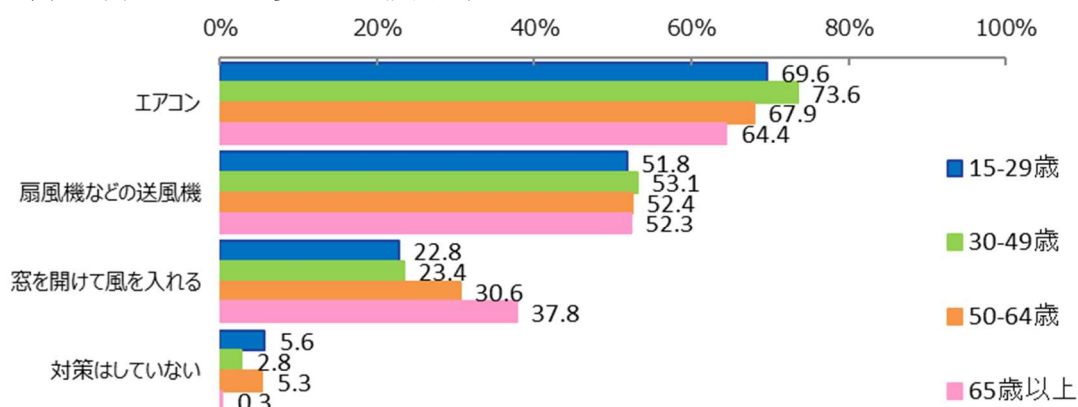
あなたが夏に「普段（平日）、寝ているときに「屋内（ご自宅）」で利用している暑さ対策」をお答えください。（いくつかでも）

エアコンが約7割、扇風機は約5割であった。



※「その他」の回答：保冷剤等を使う(n=17)、冷感寝具を使う(n=11)など

年代別に見ると、エアコンの使用は 30 歳以上で年代が高くなるほど少なくなる傾向が見られ、逆に窓開けは年代が高くなるほど多くなる傾向が見られた

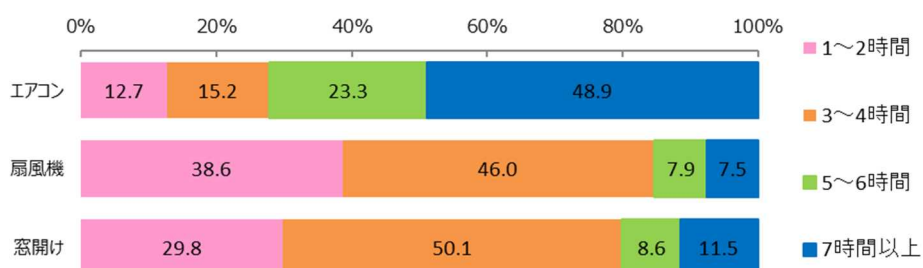


Q16-2 屋内の就寝時の暑さ対策の使用時間

あなたが「普段（平日）、寝ているときに「屋内（ご自宅）」で利用している暑さ対策」について、1日当たりの平均的な利用時間（真夏の暑さが厳しい期間を想定してください）をお答えください。

寝ている間、エアコンをつけっ放しにしているのは約 5 割、2 時間以下は約 1 割であった。

寝ている間の利用時間



年代別に比較したところ、寝ている間、エアコンをつけっ放しにしている 65 歳以上は 65 歳未満に比べ、約 5~10%低くなった。

寝ている間のエアコンの利用時間（年代別）

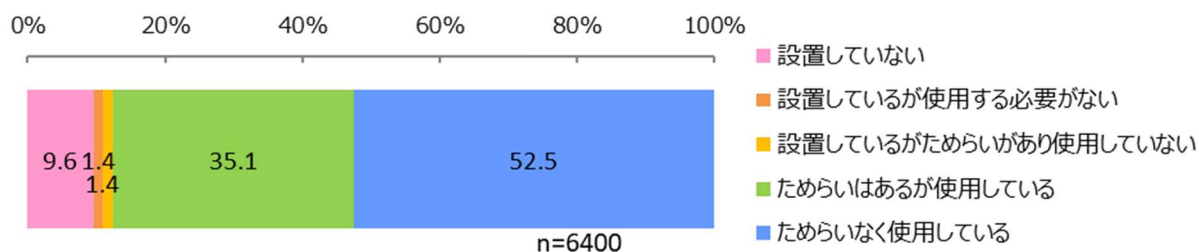


（６）エアコンの使用状況

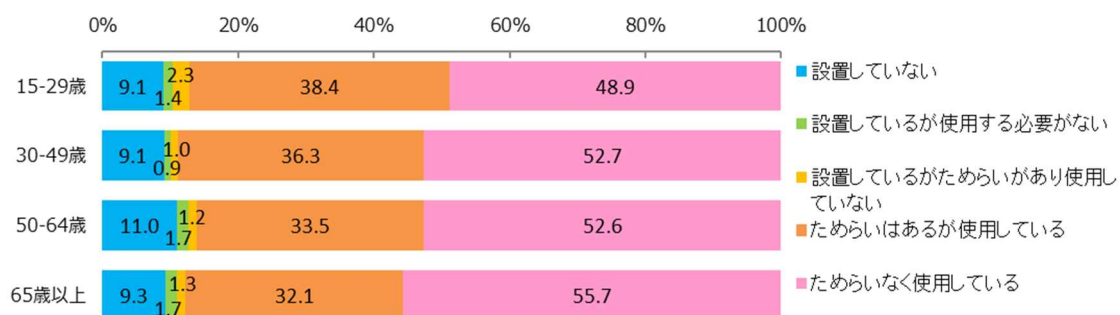
Q17 エアコンの設置・使用状況

ご自宅でのエアコンの使用についてお答えください（一つのみ）。

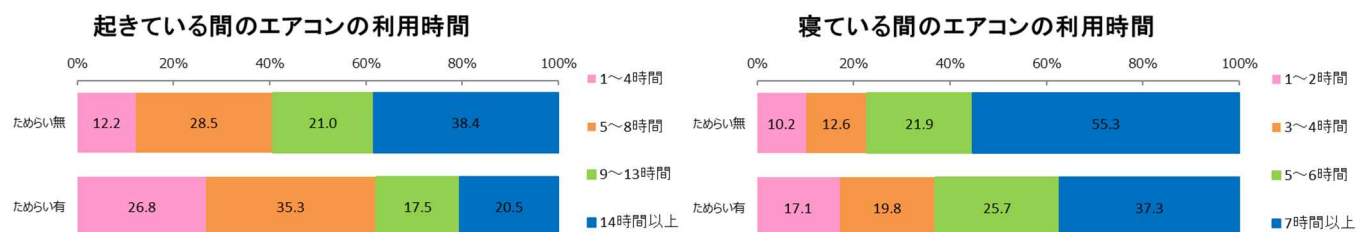
エアコンをためらいわずに使用しているのは約半数、ためらいながら使用しているのは約 4 割であった。ためらいがあり使用していないのは 1.4%であった。



エアコンの設置・使用状況は、年代が高くなるほど、ためらいなく使用する割合が高くなる傾向が見られた。



エアコンをためらいなく利用している場合とためらいながら利用している場合で、エアコンの一日の利用時間の違いを見ると、ためらいながら利用している場合の方が、利用時間が短い傾向にあった。

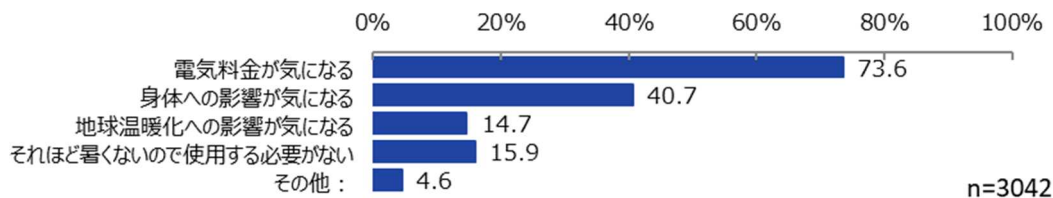


Q18 エアコン使用をためらう・使用しない・設置していない理由

(Q17で「ためらいがある」「使用しない」「設置していない」と回答した方のみ)

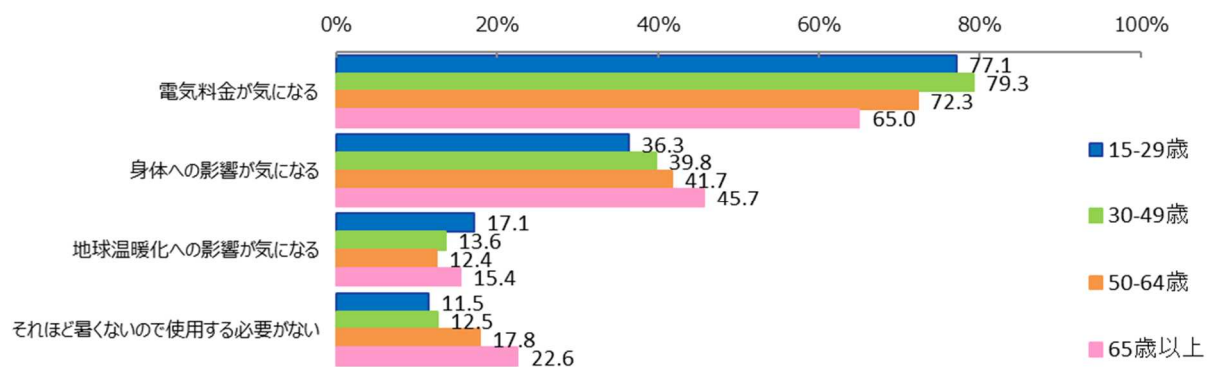
エアコンの使用にはどのような抵抗がありますか。(いくつでも)

約7割の方が、電気料金が気になると回答し、約5割が身体への影響が気になると回答していた。地球温暖化への影響も約2割の方が気にしていた。



※「その他」の回答：賃貸のため設置できない(n=41)、経済的理由のため(n=19)、エアコンが苦手(n=5)など

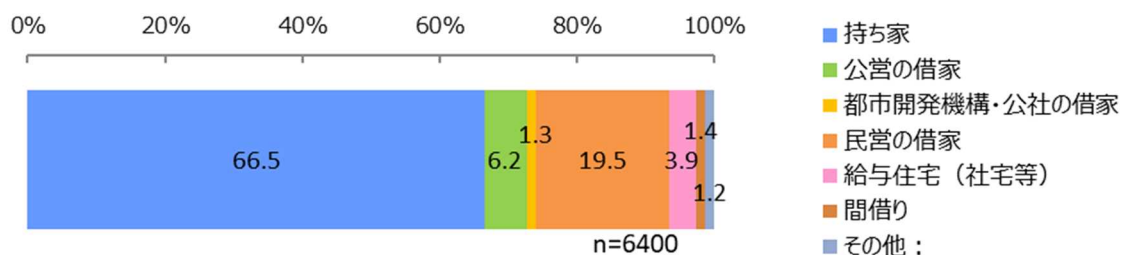
年代別に見ると、年代が高くなるほど、電気料金を気にする方が少なく、逆に身体への影響を気にする方が増えていた。年代が高くなるほど、それほど暑くないと感じている方が多いこともわかった。



Q19 住居について

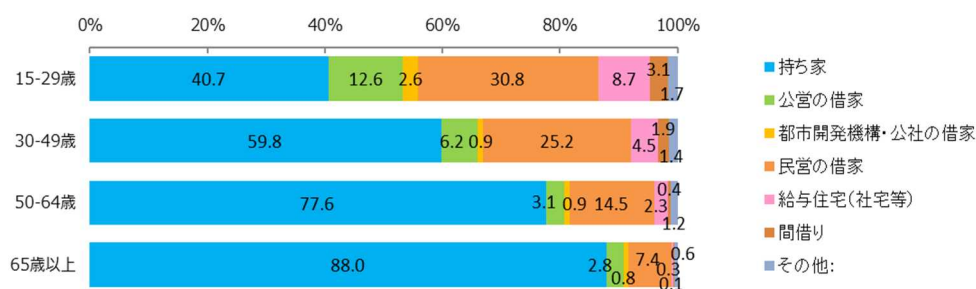
現在住んでいる家は次のどれに該当しますか。

約7割の方が「持ち家」と回答した。



※「その他」の回答：シェアハウス(n=2)など

年代別に見ると、年代が高くなるほど持ち家に住んでいる方が多くなっていた。



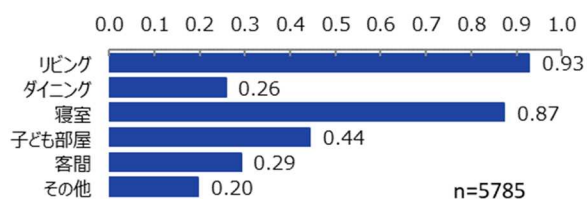
持ち家に住んでいる回答者が、一番ためらいなくエアコンを使用していた。



Q20 エアコンの保有台数

現在住んでいる家には、どの部屋に、何台のエアコンがついていますか。

各家庭のリビングに約1台エアコンが設置されている。

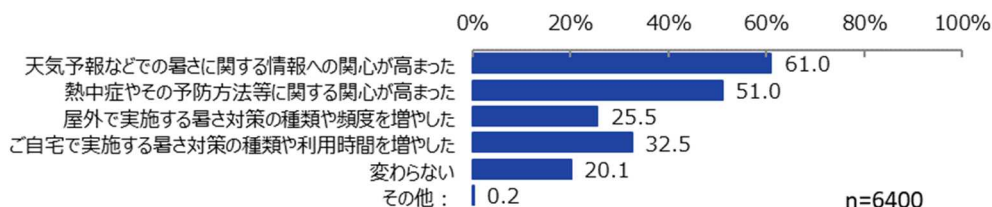


(7) 暑さに対する意識・行動変容等

Q21 暑さに対する意識・行動変容

ここ数年の夏の暑さにより、あなたの意識や行動の変化としてあてはまるものをお答えください。(いくつでも)

約5～6割の方が「関心が高まった」と回答しているが、実際に対策行動を増やしたのは約2～3割の方であった。

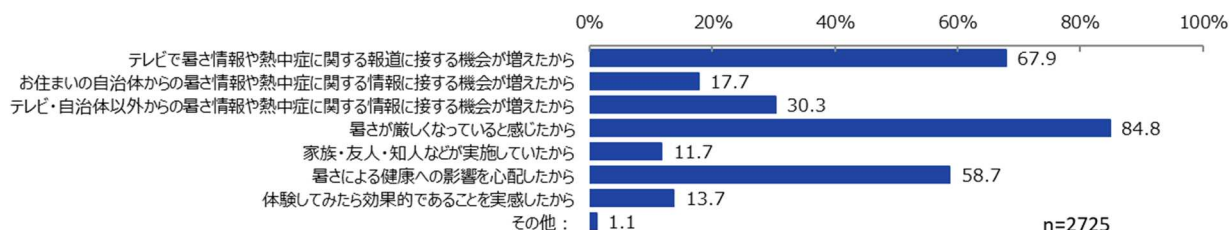


※「その他」の回答：携帯扇風機を購入した(n=2)など

Q22 対策行動を増やした理由

あなたが実施する暑さ対策の種類や頻度を増やした理由としてあてはまるものをお答えください。(いくつでも)

「暑さが厳しくなっていると感じた」、「テレビでの報道が増えた」、「暑さによる健康影響を心配した」ことなどが理由として多く挙げられていた。

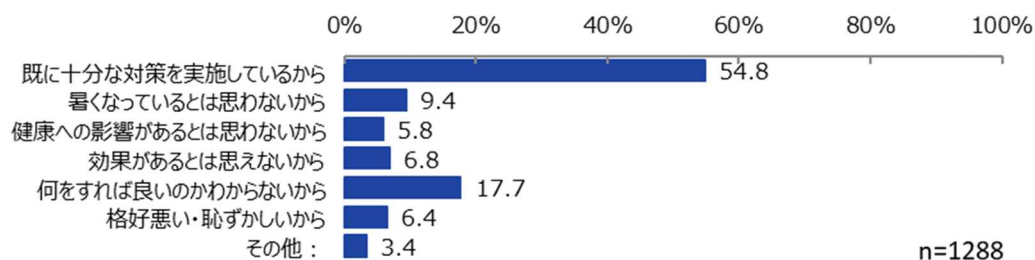


※「その他」の回答：子どもができた・いるから(n=9)、高齢者がいるから(n=4)など

Q23 対策行動を増やさない理由

あなたが実施する暑さ対策行動の種類や頻度を変えない理由としてあてはまるものをお答えください。(いくつでも)

「既に十分な対策を実施している」ことが理由として最も多かった一方、「何をすれば良いか分からない」とした方も2割程度となった。



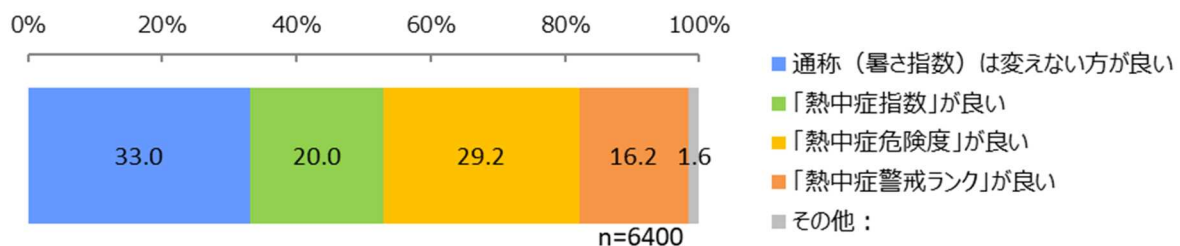
※「その他」の回答：特に意識していない(n=11)、寒冷地に住んでいるため(n=4)、など

(8) 暑さ指数 (WBGT) の名称変更

Q24 暑さ指数 (WBGT) の名称変更

「暑さ指数 (WBGT)」という通称の変更について、あてはまるものをお答えください。

「暑さ指数 (WBGT)」の名称は変えない方が良いと答えた方が 33%と最も多く、「熱中症危険度」が良いと答えた方も 29.2%いた。



(9) 暑さ指数 (WBGT) の今後の活用について

暑さ指数 (WBGT) の認知度は 46.5%、どのような指数か説明できる回答者は 6.2%で、昨年度から認知度が向上している状況は見られなかった。

今年度、1 都 8 県で施行された熱中症警戒アラートを知っている回答者の方が、暑さ指数(WBGT)の認知度が高い傾向にあった。

昨年度と同様、暑さ指数 (WBGT) を知っている回答者の方が、暑さ対策行動を多くとる傾向にあり、対策種別ごとに見ても、ほぼすべての対策で同様の傾向が見られた。

暑さ指数(WBGT)を知った情報源はテレビが最も多く、71.3%であった。次いでホームページが 19.1%、環境省のサイトも 15.9%であった。

暑さ指数(WBGT)の認知度の向上は見られなかったが、昨年度と同様、暑さ指数(WBGT)の認知度と暑さ対策行動との間には関連がみられた。今年度施行された、熱中症警戒アラートの認知度と暑さ指数の認知度との関連もみられ、暑さに関連する情報を国民に発信していくことが重要であることが確認された。

(10) 高齢者への呼びかけ及びエアコンの使用状況について

同居または別居している 65 歳以上の家族がいる回答者の呼びかけは年齢別に違いはみられなかった。実施状況は「エアコンをつけるように促すとの回答が最も多く、7 割以上であった。次いで「水をこまめに飲むように促す」が 7 割程度であった。

屋内の日中の暑さ対策において「エアコン」の使用については違いは見られなかったが、「扇風機」と「窓開け」については、年代が高くなるほど、実施する率が高くなる傾向が見られた。なお、「エアコンの使用時間」について、年代別に違いがみられなかった。

屋内の就寝時の暑さ対策は、30 歳以上で年代が高くなるほど「エアコン」の使用が少なくなる傾向が見られ、逆に「窓開け」は年代が高くなるほど、実施する率が高くなる傾向が見られた。「エアコンの使用時間」について、寝ている間、エアコンをつけっ放しにしている 65 歳以上は 65 歳未満に比べ、約 5~10%低くなった。

エアコンの使用をためらう理由は、30 歳以上で年代が高くなるほど、電気料金を気にする方が少なく、逆に身体への影響を気にする方が増えていた。年代別に見ると 65 歳以上は「電気料金が気になる」との回答が最も低く次ぐ「身体への影響を気にする」との回答は最も高い傾向にあった。65 歳以上については、身体への影響を考慮した効果的なエアコン使用等の情報の発信も効果的であると考えられる。